

# 山岳友の会会報

2023年1月 第46号



グリーンランド北西部カナック村からのバフィン湾の海水と冰山 撮影：西村基志

## も く じ

年頭のご挨拶	会長 山口 孝	2
第59回現地研修会（谷川岳）	報告 滝沢 義夫	2
第60回現地研修会（蓼科山）	報告 小林 久雄	3
第21回憧憬の森講演会	報告1 坂本 孝	3
	報告2 前田 雅志	4
明神養魚池メンテナンス（22.10.29）	報告 小林 久雄	5

## 年頭のご挨拶

友の会会長 山口 孝



友の会の皆様、新年明けましておめでとうございます

昨年の山は未だ続くコロナ禍の中、登山者が少しずつ戻ってきたような賑わいのあるシーズンでした。比較的天候にも恵まれ、台風や大雨などの自然災害もありませんでした。山小屋経営は全てお天気で左右されると痛感しました。

昨シーズンも私どもは登山道の修理を続け、本谷上部の危険箇所を直してもらい、それによってすれ違いもスムーズになり、秋の混雑時も渋滞もなく多くの登山者に喜ばれました。登山道の修復は山小屋の一番大事な生命線ですので、毎シーズン皆で手をかけて維持、修理を続けてゆきたいと念じております。

本年も友の会の皆様と、明るく楽しい山行と会合を御用意しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様にとってより良い一年となりますように願ってやみません。

「生きている限り、青春だ！！」で行きましょうね。

## 第 59 回現地研修会（谷川岳）報告

滝沢 義夫

コロナワクチン未接種もあり、今回は参加見合わせとしていたのですが、教授のお誘いもあり陰性証明を取っての参加にしました。しかも当日は雨の予報で、取り敢えず水上温泉ツアーだけでもと考えていました。

1 日目、松本駅で参加者と合流し、早速バス飲み開始でしたが.....購入のビールが冷えておらず熊谷さんの冷やした濃い目のハイボールでスタート。渡邊さんがビールを待ちきれずに、更埴 SA から乗車の相澤さんに冷えたビール数本を電話で依頼。そこで同乗予定の堀内さんとうまく連絡が取れていないとお話で、急遽堀内さんに電話してみたら、日程が一日早まったことの勘違いが発覚しましたが、準備してあるからすぐに出られるということで、更埴で待ち合わせて何とか 13 名揃っての参加となりました。皆さん日程変更など連絡にご注意ください。事なきを得て、相澤さんの冷えたビールもゲットでき、愉しく浅間を眺めて県境を越えました。

まずはこんにやくパークを訪れ、日曜日ということもあってか人出が多くてビックリしましたが、サバやラーメンにしらたきの天麩羅とこんにやく尽くしを楽しみました。

お昼は富岡製糸場近くの割烹で堪能し、明治の工業化「富岡製糸場」を解説員付きで見学しました。岡谷の女工哀史「あゝ野麦峠」を知る者には、少し近代的な広い施設だとは思いました。水上の温泉を満喫しお酒もいただいて、明日の谷川岳登山を期待しつつ眠りにつきました。また、久々につくばからご参加の酒井さんとも合流し、土合駅がまだ単線だった昭和 30 年代に一ノ倉通いしたお話など伺い、ビックリでした。

さて、谷川岳登山ですが、大きなロープウェイで天神平まで全員が一台で上がれました。上は少しガスが巻く天候でしたが暑くなく登山をスタート。途中の避難小屋は立派で木道も整備されていました。2 時間 30 分ほど頑張り、トマの耳オキの耳に着いた時には快晴で遠く苗場も見えました。

流石に年を重ねたので疲れはありましたが何とか無事に下山できました。

## 第 60 回現地研修会（蓼科山）報告

小林 久雄

なかなか安定しない天候でしたが.....8 名+1 名の参加で愉しく出来ました。前田さん日帰り参加、ご苦労様でした。

各自、車に分乗して蓼科山 7 合目登山口駐車場に集合。スッキリしない天候の中、鳥居をくぐって山頂へ登山開始。1 時間と少しで山荘に登り、溶岩の階段の急登を頑張って山頂に着きましたが、あいにく霧が深く眺望は望めませんでした。

風を避けて小屋の脇の登山道で昼食。下山は溶岩の大きな階段状の下りだったので、滑らない様にと気遣いました。途中の天狗の舞では眼下女神湖、遠く車山なども霧の合間に見え、紅葉も少し進んで綺麗でした。雨に合わずに 3 時前には駐車場に全員下山。

さて、滝の湯へ。まずは汗を流して蓼科の湯に身体をいたわってつかりました。そして、飲み放題+バイキングの夕餉です。各自、天麩羅やお寿司にお肉と和・洋・中、お酒も生ビールに日本酒、ワインと、少し抑えての楽しいひと時です。『満喫』

翌朝もバイキング、牛スジ丼にお蕎麦やごはんやパンなどで愉しく朝食後、北八ヶ岳ロープウェイで自然の坪庭の不思議にふれ、縞枯山にも登りました。天候に恵まれて、御嶽山に穂高・槍と眺望にも恵まれ、昨日登った蓼科山もスッキリと晴れ渡っていました。9:20 にロープウェイに乗り 11:20 で下り、そして帰宅の途につきました。

一度は行ってほしい坪庭の不思議さに感動した山旅でした。

## 第 21 回憧憬の森講演会 報告 その 1

坂本 孝

第 21 回憧憬の森講演会は「国立極地研究所国際北極環境研究センター特任研究員」の西村基志氏(31)から「北極圏の村グリーンランド・カナックでの生活と雪氷気象調査」と題したお話しをお聞きしました。



### ★グリーンランドってどんなところ？

日本から約 8,000 km、北緯 66°33'の北極圏にあり、時差は 12 時間、北半球における白夜の南限にあたる。

面積は日本の 5.7 倍で国土の約 8 割が氷で覆われている。人口は約 5,5000 人、ライフラインは電気のみ、犬ぞり(グリーンランド犬)犬は愛玩用ではなく家畜として扱っている。生活物資は海氷が開ける時期 7 月、9 月の年 2 回の補給船頼み、その間は冷凍の野菜や肉等で生活している。補給船が来るとスーパーにアルコール(ビールやワイン)が並ぶが直ぐに売れてしまう。研究者の皆さんは日本から持参したカップラーメン等でのお食事をされているようで...

### ★グリーンランドでは何が起きている？

海氷面積の縮小、氷河・氷床融解の促進、氷河の暗色化...産業革命以降の大気汚染...クリオコナイト(氷河の表面に主に大気汚染粒子、雪氷上で他の物資や有機化合物によって出来る)氷河上黒い筋になって表れている。また赤雪の観測も、氷河末端付近では、クリオコナイトホールが見つかった。

## ★研究者が取り組んでいること

北極域の環境変動の実態把握やその変動メカニズムの解明。それに基づき地球の健康診断を行うとのことです。

徒歩による気象観測装置の運搬や設置と色々な作業があるようです。

健康面や安全面に気を付けて、これからも北極圏での雪氷気象調査研究での大いなる成果を期待しています。



追記：気になったこと...

- ①発電設備が今一分からなかった。
- ②飲料水の確保と下水、特に污水处理は？
- ③人を刺す「蚊」以外に昆虫は？高山植物のような花が咲いていましたが...  
蝶や蜂の仲間は？

## 第21回憧憬の森講演会 報告 その2

前田 雅志

去る12月3日例年通り松本駅前会館にて「憧憬の森講演会」が開催されました。

今回は国立極地研究所の西村基志様より ArCS II からグリーンランドでの生活と雪氷気象調査で、今「グリーンランドで何が起きているか」と題してお話をいただきました。



現地では地球温暖化により氷床融解が進み、夏場には一日に60億トンの氷が融けると報告がありました。融解が促進される原因に、クリオコナイトと呼ばれる空気中の砂鉱物微生物が表面に付着暗色化して熱吸収が高まり、氷床融解を促進し流れとなり細い流れが下流ではウォータースライダー状態となっている。融解の量と早さに驚きました。

した。

温暖化による気候変動は氷床融解、氷河の消失、さらには度重なる大規模な自然災害の発生と人類の活動に大きな影響を与えている。改めて地球人のひとりとして少しでも温暖化防止に日々努めたいと思いました。

【写真：荻野 秀夫】

## 明神養魚池メンテナンス（22.10.29）報告

小林 久雄

10月29日に秋の好天に恵まれて明神へ、カラマツの黄葉に囲まれて集合。

池の様子はいつもと違って、池は落ち葉がいっぱいです。

流れ口の金網に難攻しながらも、出来る限り落ち葉を流します。

4つの池ともに落ち葉は多いのですが、いつもの枝などの落下は少なくて助かりました。

池を歩いてみると足には小石や砂利の感覚で泥は少ない感じ。春先の作業と台風など比較的にダメージは少なかったのかも知れません。

小石・田下・荻野・滝沢・澤田に竹原さんも宴のお手伝いで3時間ほどで作業終了。

落ち葉は多かったけどスムーズに出来ました。

囲炉裏小屋には嘉門次小屋をお手伝いしていた高山さんも来てくれました。焚き火の暖かさとおいしいおでんで心暖かい今宵となりました。

『 炊くほどは 風がくれたる 落ち葉かな 』一茶の句が、こころによりそう一夜に。



【写真：荻野 秀夫】

信州大学山岳友の会会報 第 46 号  
発行日：2023 年 1 月 5 日  
発行：信州大学山岳友の会  
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1  
信州大学山岳友の会事務局  
TEL：0263-37-3332  
FAX：0263-37-2438  
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp